



自然観察指導員の

新たな活動へ

木村 マサ子

はじめに

昨年の春、膝の故障による手術のために一ヶ月ほど入院しました。その間、函館山の自然を愛する仲間が、山に登るたびに病院を訪ねて来てくれて、函館山の草木の開花や野鳥の様子、そして山で逢った人のことなどを話してくれました。

カメラの好きな友人は、長年撮りためた花の写真をファイルに整理して「退屈だろうから見えてくれ!」と、数冊届けてくれました。

私は、ベットに横たわりながらも函館山の様子が自分で今にも登って来たかのように知ることができた上に、花の写真は何年も前の記録をも呼び戻し、見舞いに来てくれた人との話題に欠くことのない楽しい思いをしました。

やがて、花の写真ファイルは、私の部屋の6人を回り隣の部屋へと渡っ

て行き、さらに入院者同士の友達を通して他の階の人たちも回覧して、入院患者さん達を楽しませてくれたようです。

入院者の多くは長期入院の高齢者だったこともあって、写真の花により、自分の生まれた町のことや母親のこと、子供のころ遊びながら食べた木の実の味など思い出していたようです。そしてそれが語り合いとなつて、入院室の雰囲気や和ませていました。

私はルーペを持って行ってたので、お見舞いに頂いた花を覗きながら部屋の人に「近づいて見れば世界が変わるよ」と、見方を紹介して楽しんでもらいました。このルーペは、私が退院するまで同室の誰かに花が届く度に部屋を花と共に回る事になりました。

この入院生活で気が付いたのは、野外に行きたくても行けない人がいることや長く入院している人に草花や動物の写真を見てもらったり、自分が見てきた街や海や山の話をすることも、自然観察指導員の活動に取り上げられないかと言うことでした。

活動計画

退院後、早速、自然観察指導員の新たな活動として二つの計画を立てました。

一つは、自然観察指導員の研修の意味を込めて(レベルアップより観察会の目的のための足並み揃え)森を案内する他の団体と一緒に活動すること。

二つ目は、野山へ出掛けなくとも室内での観察会を開くことでした。私は、函館山を拠点に活動しているので、函館山で活動している他の団体(5団体に呼びかけ)に簡単に連絡が取れてまとめる事ができました。

更に、観光業者にも相談した結果、函館山で季節ごと4回のガイド付き登山会を開いてみようと話し合い、2月の「冬の函館山を楽しもう!」から始めることになりました。私達ガイドは、コースやガイドポイントの選定と安全対策を、観光業者は広報と参加者募集を担当と、役割りを分担しました。

ガイドは開催する度に、下見の勉強会を開き解説のための知識の習得で終わらず、共通の確認として「一、函館山は鳥獣保護区特別保護地区であることから、採らず殺さず持ち帰らずの精神で、二、コースを外れたり見世物ガイドをしない」を、都度確認しました。ボランティアガイドは、渡島松山地区の広い範囲から二七人も集まって来てくれたこともあって、一人一〇人以内の担

当としていましたが、一〇人を越えることはなくゆったり対応できました。参加者からは、毎年続けてとの要望が出た以上に、ガイドも回を重ねる都度に面白味が増して行った様子が感じとれました。

室内観察会についても春から準備が進められていきました。

函館山の写真を撮りためていた二人と自然観察指導員とで実行委員会を作り、芸術的写真展よりもっとラフに一年を通して函館山の自然が楽しめる「函館山の花ごよみ」として写真を季節ごとに展示し、その解説を函館山で活躍するボランティアガイドが担当することで計画を進められて行きました。開催場所にNHK函館放送局のギャラリーを申し込み、写真を月ごとのパネルに仕上げて行きましたが、撮影者はより写りのいいものや珍しいものを公開したい希望もあったため、協議の結果開催目的をあくまでも「盗掘防止」とすることと一致して、ラン科のものや藪をこいで行かなければ見れないものは外されました。それでも、花・実・紅葉・動物と二〇〇種二七〇枚の写真が使われました。

開催は九月の最終の一週間で、会場には月ごとに見られる花や動物の写真と、函館山の盗掘や山菜採りの現状写真を見てもらいその防止をア

ピールするプリントも配布しました。身近でも楽しめる様、路傍の花をテーブルにアレンジしてもらい、それらの解説のためにガイドが毎日待機して対応しました。

「函館山の花ごよみ」展は、マスコミに紹介されたこともあって、初日から多くの人が見に来てくれガイドの活躍所となりました。

見に来てくれた人の中には、家族の車で送られてきた人や「もう山を登れなくなった」と杖をついて来る人もいましたが、写真の花に笑顔を見せ、ガイドに「あのコースの花は、今年も咲きましたか」と尋ねていました。

開催の六日間は見学者の切れることもなくプロカメラマンや他の団体からも「企画がいいネ」と好評を得て、撮影者も対応したガイドの励みになり、これからも続けて行こうと実感した催しでした。

計画を実施して

「函館地区(渡島・松山)には、森の案内人として(NACS-J自然観察指導員や北海道ボランティアレンジャー・グリーンインストラクター)

登録している人は約一〇〇人で、実際に活動しているのは三〇人程です。

野外活動する団体も二〇近くあって、夏の間は活発に活動しているの

で、同じフィールドで他の団体が同時に観察会が開かれることもありま

す。

案内人も、野鳥や植物そして林業体験豊富な専門家とバラエティーな上に、案内に熱心なあまり知識や体験の押し売りだったり、草花を採って見せるのが当たり前と考える人もいて、「なんのために観察会を開くのか?」と疑問に感じるものが時々あります。又、ボランティア登録していても実際に活躍するチャンスがないと言うのも現実の問題でした。

これらの事からも今年函館で行った活動は、地域に合った実践研修が出来たことと、写真展で見られた様に、野外に出たくとも出れない人には「ネイチャー・セラピー」としての役割も発揮出来ることが分かり、大きな収穫となりました。